

学校の教育活動から

○学校体験実習の先生(学生)の“感謝の会”【1年生】

先週、山口短期大学博多キャンパスで教職を目指して学んでいる学生さん8名が、本校に学校体験実習に来ていました。本校教師の授業を通して様々な指導の工夫を学んだり、子ども達と楽しくふれ合ったりしながら充実した5日間を過ごしていたようです。そして、12日(金)の最終日、一番長く一緒に過ごした1年生のみんなが、**実習の先生に「ありがとう」の気持ちを伝える“感謝の会”を開きました。**1年生が感謝の気持ちを書いた手紙を読み上げる際に涙で言葉を詰ませたり、子ども達の手紙の「大好きです。とっても大好きです。」の言葉に実習生の目が真っ赤になったり、子ども達が歌う歌声を聴きながら目に溜まった涙を手で拭う様子が見られたり…。お互いの心が揺り動かされた会になりました。

子ども達は、これまでも実習生の手をさりげなく握ったり、膝に飛び乗ったり、「大好き！」と伝えたりしていました。このようにストレートに愛情を伝えてくる子ども達の姿は、実習生の皆さんの心に響いていたようです。年齢も高くなるにつれて、気持ちを率直に伝えることに抵抗が出てきてしまい、大人の世界では様々なことが疑心暗鬼になり、気持ちを読み合うことに疲れてしまいがちです。しかし、子ども達は違います。**素直に、ためらいもなく、愛情を言葉や行動で示してきます。実習生の皆さんにとって、近年感じたことのない愛情を受けたことが教職に対する意欲にもつながったようです。**ある実習生の日記には「これまでは、“先生になれるかな”と不安に思っていたけれど、今では“先生になる”という気持ちにかわりました。」と書かれていました。

子ども達の素直な愛情表現は、実習生の教職への意欲を高めたようです。このことからすると、逆に、私達教師や親が、子ども達へ向ける愛情は、その子の人生を左右するパワーがあることを改めて感じました。そのことを肝に銘じ、心がけていきたいと思います。



感じたことから

○学びにつながる「整理整頓」

教室をまわって子ども達が勉強している様子を見ることがありますが、先生や友達と共に一生懸命に学習に取り組んでいる姿が見られています。しかし、中には机上が乱雑に散らかっていたり、机の周りに不必要なものが散乱したり、勉強の集中を妨げるようなもの(文房具?)が出ていたりすることがあります。**身の回りの「整理整頓」ができていないと学びにも影響しないか心配**です。

学習問題は、高学年になればなるほど複雑化してきます。抽象的なことですが、右図の①のように、低学年では「■」を「□」にするためには、“黒を白に変える法則 A”を使えば解けるのですが、高学年はそれではすみません。「■」を「◎」にすることが求められるような問題がでできます。そのためには、右図の②のように、まず「■」を「□」に変える“法則 A”を用い、次に、「□」を「○」に変える“法則 B”を使い、さらには「○」を「◎」に変える“法則 C”を使う必要が出てきます。これは、単純化した例であって、本当はもっと複雑です。そして、受験ともなれば、時間との勝負ですので、問題を解く際に瞬時にどの法則をどこに当てはめて解を導くか判断しなければなりません。そのために、**頭の中の整理整頓をしっかりとし、どの引き出しにどの内容を入れて使い勝手を良くしていくか**が大切です。

私たちの仕事を例にとっても同様です。私はよく教頭先生に業務上のお尋ねをすることがありますが、瞬時に回答してくれます。それは、パソコン上の業務フォルダがきちんと整理されているからに他なりません。

“勉強は勉強”“生活は生活”というわけではないような気がします。**生活面で整理整頓ができていない子は、学びの面でも頭の中の整理整頓ができずに困ってしまう場面が出てくるのではないのでしょうか。**まずは、生活面での整理整頓を心がけ、学習面での頭の整理にもつなげてほしいと思います。

